

# 「多くの命を救った書」

## 読者からのハガキ 1万5000通に

『なぜ生きる』には読者の感想ハガキが数多く寄せられました。世代を超えて、その数は1万5000通にもものぼります。中でも、自殺を考えていたという10代の子どもたちの声には、胸を打たれるものが

あります。

「自殺を考えていた私の目に飛び込んできた『なぜ生きる』。命を救ってくれた本です」  
(17歳・女性)

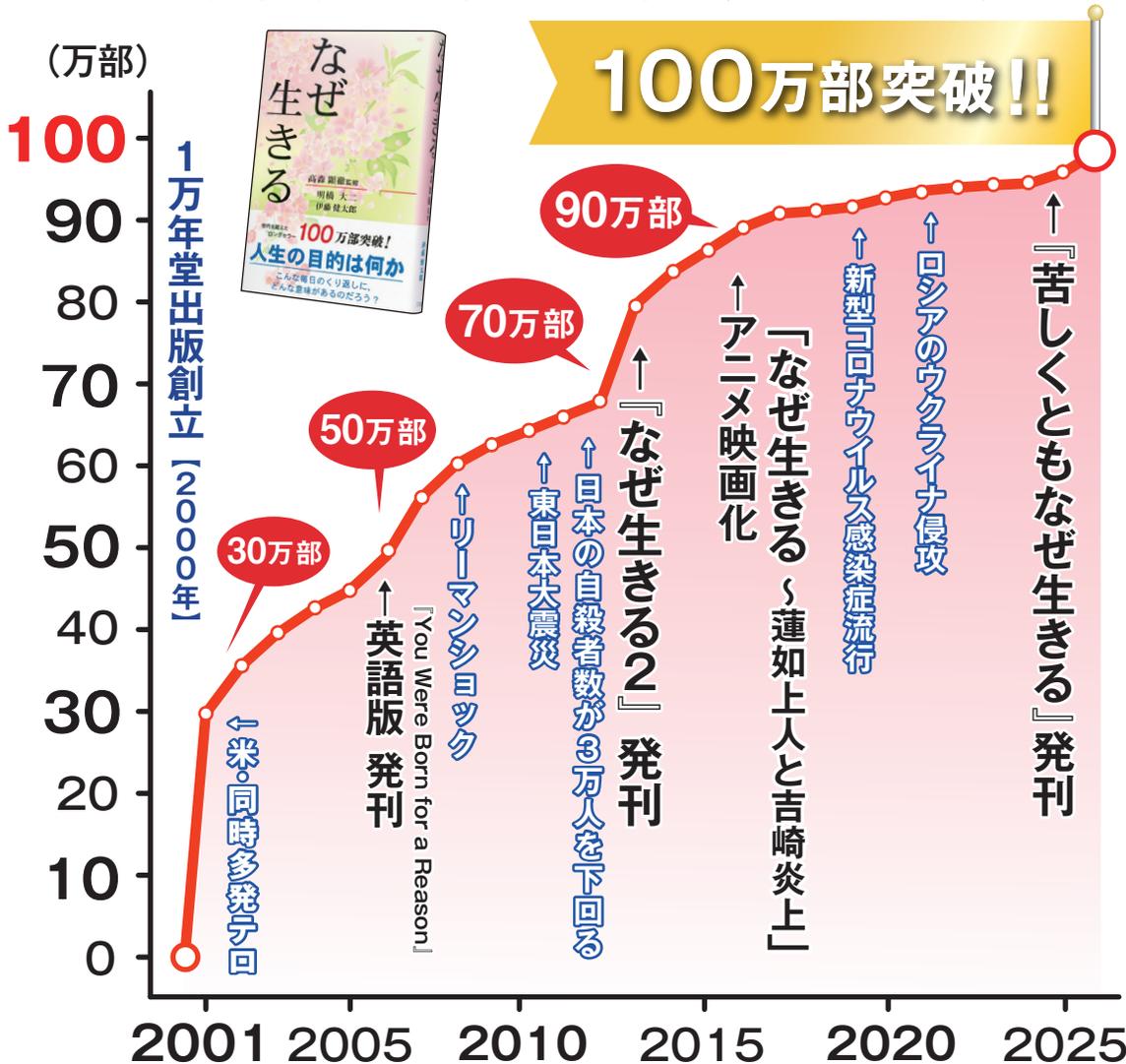
「僕はいじめにあつて、死ぬのかな?と思っていた。けど

これをよんだら、こんなことで命をむだにはいけないと思いました」(10歳・男性)

こうしたハガキが相次いだことから、『なぜ生きる』を「多くの命を救った書」と評する出版関係者も少なくありません。国内の自殺者数が15年ぶりに3万人を切るのは、2012年のことでした。

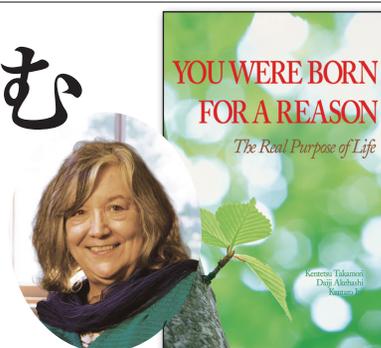
# 色褪せないロングセラー

## 25年間の歩み・発行部数の推移(2001~2026)



# 世界が待ち望む『なぜ生きる』

## カーペンター教授から喜びの声 12カ国・地域に翻訳広がる



『You Were Born for a Reason』(2006年発刊)

『なぜ生きる』100万部突破の報に、英訳を担当したジュリエット・カーペンター教授(同志社女子大名誉教授、米国在住)の写真)から喜びの声が届きました。

「なんと素晴らしいことでしょう。人類にとってこれ以上の幸せはありません。『苦しみに耐えながら、なぜ生きるのか?』は、全ての人の『魂の叫び』です。その叫びに、鮮やかに答えてくれている本だからです。世界の人たちの手に届くことを願います」

英語版の監修者は、カーペンター教授が師と仰ぐエドワード・サイデンステッカー教授(故人)。同氏は、川端康

成の小説『雪国』を翻訳し日本に初のノーベル文学賞をもたらした研究者です。『なぜ生きる』には最大級の賛辞を惜しまず、次のような言葉を残しています。

「『なぜ生きる』は、厳粛にして深遠な書である」  
(a solemn and profound book)

その後、英語版から各国の言語への翻訳が広がり、今では世界12カ国・地域で出版されています。昨秋、ドイツで開かれた世界最大の書籍見本市でも、ドイツ語版『なぜ生きる』が出品され、出版関係者の注目を集めました。

### 書店からの応援の声

(1面から続く)

◆ヤマト屋書店仙台三越店(宮城) 鈴木典子さん 「ジャンルの枠を超えて読み継がれた名著ですね。これだけ売れているのは、新たな読者が生まれているからですし、先に読まれた方が『この本いいよ』って勧めておられるからだと思っています」

◆清明堂アピタ富山店(富山) 店長 松井重樹さん 「安定

して売れ続けるのは、本書への読者の支持がずっと廃れていないことの証左でしょう。人である限り、いつか出会う『なぜ生きる』は、誰しもこの本が必要になる時が来るでしょう」

◆本のひびき(福岡) 小玉泰治さん 「『なぜ生きる』というタイトルは、みんなが持っている悩みに寄り添ってくれている印象です。私も読みました。

その時、感じたことが自分の養分となって、自分の考えの根本となっていると感じています。常時、お店に置いています。お勧めし続けたい一冊です」

続きの応援コメントは、1万年堂出版公式サイトで紹介しています。こちらからご覧ください。▶

